花まる学習会 野外体験部 YouTube に動画を公開！ **https://hanamaruyagai.jp/yagaitaken/pv/** をチェック▶▶▶

テキスト④

釣り名人になろう！

自然を肌で感じ、時間を忘れ、魚との１対１の勝負に没頭できる釣り。
魚と対峙することで生命の重み、力強さをダイレクトに感じられるのも釣りの魅力の１つ。
同じ場所、時期であったとしても、わずかな環境変化によって釣果は左右されます。
釣り＝ただ釣り糸を垂らしているだけ、ではありません。
今回は仕掛けや釣り方を駆使して臨む、海釣りについてご紹介。基本の仕掛けをマスターし、釣り名人になろう！

釣り場もいろいろ！ 大きく分けて、堤防・砂浜・磯場の３つ。場所によって釣れる魚も違います。

堤防

堤防はテトラポッドやゴロタ石などさまざまな障害物があり、多くの魚が集まってくるため、釣りには絶好のポイント！ 足場も安定しているので安全面も確保でき、座ってのんびり釣りを楽しめます。初めての人からベテラン、子どもから大人まで海釣りを始めるには絶好のフィールドです。

狙える魚 シロギス、イシモチ、カレイ、アイナメ、カサゴ、ハゼ、スズキなど

砂浜

砂浜も手軽に釣りが楽しめる場所。砂浜からの釣りは、仕掛け（オモリなど）を遠くに投げて狙うところから、サーフ（砂浜）とも、投げ釣りとも呼ばれています。

狙える魚 シロギス、イシモチ、カレイなど

磯場

地磯と沖磯の２種類に分けられる磯場。地磯は陸つづきの場所で、歩いて行けます。沖磯は歩いていけないため、船を出してもらう必要があります。磯場は潮通しがよく、酸素と栄養量が豊富。そのため大物を狙えますが、荒波の洗う岩場が多いため、危険度が高く、ビギナーにはおすすめできません。釣り場によっては潮が満ちると入磯経路が水没するケースもあるので、潮の干満は事前に必ず確認が必要です。「安全に竿を出せること」と「釣果を得る確率」の２点を十分に考慮し、釣り場を選びましょう。
また、磯場で気をつけることは根掛かり！ 根掛かりとは、釣り針やルアーが水底の岩、根株、サンゴなどの障害物に引っ掛かってしまい、取れなくなってしまうトラブルのこと。少し高い場所から海面を眺め、黒っぽく見えるところが根掛かりゾーンと覚えておきましょう。

狙える魚 アイナメ、クジナ、カサゴ、シロギス、カレイなど

釣り中の事故に注意！

釣りは楽しいだけではありません。思い通りにならない自然と向き合うわけですから、危険も潜んでいます。釣り針が刺さってしまったり、人の投げた仕掛けがあたってケガをしたり、毒を持つ危険生物に刺されてしまうことも。なかでも特に多いのが海中への転落事故！自分は大丈夫と決めつけずに安全対策をしっかりとしましょう。

ファイヤーとのお約束 釣りは危険と隣り合わせ！

- その１ ライフジャケットを必ず着用する！
- その２ 釣り場に応じた靴を履く（滑り止めのついたものだとなお良し）！
- その３ 単独行動をしない！
- その４ 天候の悪い日、波の高い日は釣りを控える！
- その５ 立ち入り禁止区域に入らない！
- その６ 携帯電話は防水パックなどに入れて身に着ける！

□ライフジャケット

□帽子

□動きやすい靴

そのほか首からかけられるタオルやゴミ袋、ウエットティッシュを持っていくといいよ。
飲み物は多めに用意しておこう！

魚を釣るための道具を準備しよう！

魚を釣るための道具一式のことをタックルと呼びます。

□釣り竿（ロッド）

□リール

釣り糸を巻き取る道具。
釣り竿に取り付けて使う。

□道糸（ライン）

釣り糸のこと。
リールに巻いて使う。

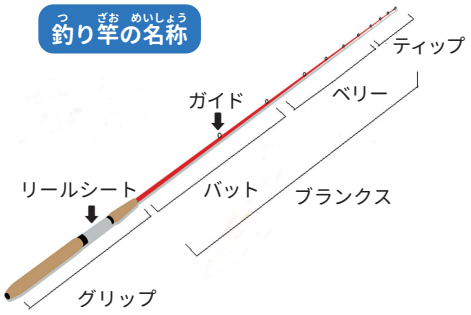
□仕掛け

オモリ、天秤、ウキ、ルアー、
エギなど。

※釣りたい魚や仕掛けによって道具は異なります。

道具の準備が整ったら、

1. 釣り竿にリールをセット。釣り竿の手元部分にはリールシートと呼ばれるリールを取り付ける場所があります。そこにリールフットをセットします。
   リールシートがスクリュー式の場合は、スクリューの部分を回してしっかりと締めてリールを固定！ 締め過ぎに注意。
2. リールのベールを起こし、釣り竿のガイド（輪っか）に道糸を通していきます。
   このときガイド（輪っか）がすべて同じ方向を向いているか確認。穂先のガイド（輪っか）に向かって順々に道糸を通していきます。
   通し終わったらベールを戻し、穂先のガイド（輪っか）から出ている道糸を掴んで軽く釣り竿を曲げ、すべてのガイド（輪っか）に道糸の通し忘れがないかチェック！



ファイヤーのワンポイント！

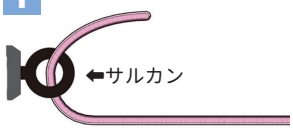
釣り竿には**並継ぎ式**（組み立てタイプ）と**振り出し式**（コンパクトに折り畳めるタイプ）の２種類があるよ。並継ぎ式はガイド（輪っか）に道糸を通す前に竿を継ごう。このときすべてのガイドが１直線上に並ぶように継ぐこと！ 道糸はガイド（輪っか）に真っ直ぐ通そう。竿への糸ねじれや、道糸が竿を１周しているのはNG。振り出し式は、竿を伸ばす前にガイド（輪っか）に道糸を通したほうが楽だよ。また、竿先を上に立てながら道糸を通していくと、誤って手を離した際に道糸が抜けてしまうことも。道糸を通すときは竿を横にしながら作業しよう！

釣り糸の結び方をマスターしよう！

道糸をハリやサルカン（糸と糸、糸と仕掛けを結ぶ金具）、おもりなどに結ぼう。

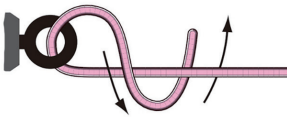
結び方：クリンチノット

1



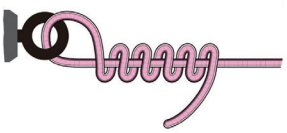
道糸を金具の輪に通す。

2



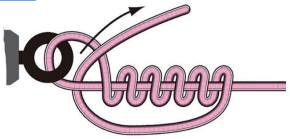
本線に巻きつける。

3



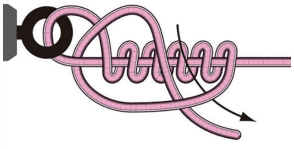
これを３～５回繰り返す。

4



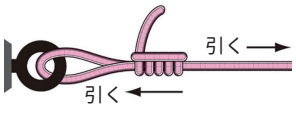
道糸の先端を最初にできた輪のなかに通す。

5



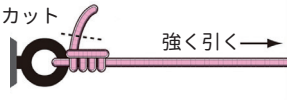
さらに大きな輪（④の行程でできた輪）のなかに通す。

6



結び目を金具に近づけながら、少しずつ締める。

7



最後に道糸を強く引いて締め込み、余分な道糸をカットして完成！

ファイヤーのワンポイント！

道糸への巻きつけ回数を多くし過ぎると、締めたときに道糸にヨレができてしまうので注意！ また道糸やハリス（仕掛け糸）のヨレ、パーツやルアーの回転によるヨレの発生を防ぐにはサルカンを使うといいんだ。

釣り方もいろいろ！ 海釣りでは、釣れる魚の種類が多いため釣り方もいろいろ。そのなかから代表的な釣り方を紹介！

釣り方 その① ウキ釣り

ウキ釣りとは釣り竿と針を結ぶ糸にウキと呼ばれる道具をつけて魚を狙う釣法。ウキがあるため、魚がかったことを目で判断できるのでビギナーにおすすめ！ ウキを利用して、魚の泳いでいる深さにエサを合わせることもできる。ちなみに、ウキも種類が豊富！ 風や波の影響を受けやすいけど、仕掛けの沈下がわかりやすい棒ウキ、円錐状の玉ウキ、シモリウキ、円錐ウキなどがある。

狙える魚は？

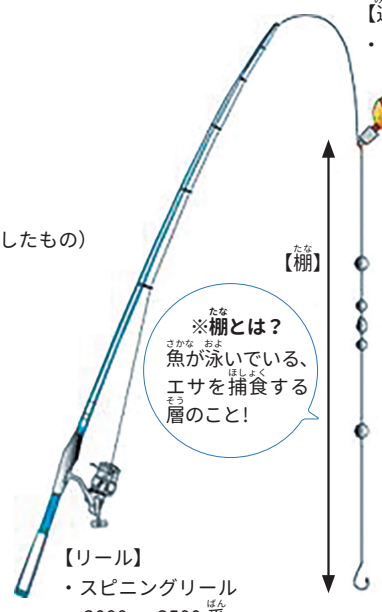
砂浜の場合……ハゼやセイゴ、キス

➡海の底が狙い目！ エサの位置は海底ギリギリ、もしくは海底に這うようにウキの位置を調整しよう。

堤防・小磯の場合…ウミタナゴ、メジナ、サヨリなど

➡海の中層が狙い目！ コマセ（撒きエサ）を少しずつ撒きながら、集まってきた魚を釣ろう。

ウキ釣りの仕掛け例



【道糸（ライン）】
・ナイロン 3 号（道糸の強力 5.4kg）

【ウキ】
・玉ウキ（ゴム管で固定）

【釣り竿】
・磯竿 1 ～ 1.2 号
（細く軽く操作性を重視したもの）
・竿の長さは 4.0 ～ 5.3m

【棚】

【オモリ】
・ガン玉（浮力調整のため使用。小～中サイズ適個）

※棚とは？
魚が泳いでいる、エサを捕食する層のこと！

【仕掛け】
・サルカン（道糸のヨレを防ぐ役割）

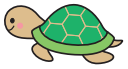
【オモリ】・ガン玉

【道糸（ライン）】
・ハリス（仕掛け糸）0.6 ～ 1 号
（長さは 0.6 ～ 1m）

【ハリ】
・ハリス付きハリ仕掛け袖バリ 3～5 号

【リール】
・スピニングリール
2000 ～ 2500 番
（小型で軽量。女性や子どもでも扱いやすいのが特徴）

紹介した仕掛けは一例だよ。釣りたい魚に合わせて変えてみよう！



釣り方 その② 投げ釣り

投げ釣りは仕掛けを遠方に投げては引いてを繰り返し、遥か沖や深場から魚を釣り上げる釣法。主な釣り場はサーフ（砂浜）。

狙える魚は？

沖合いを回遊するキスや底物（海底にすむ魚）カレイ（マコガレイ・イシガレイ）

投げ釣りの仕掛け例

【道糸（ライン）】
・PE（ポリエチレンライン）3 ～ 4 号

【天秤】
・ジェット天秤 20号（オモリとアームが一体となっており、仕掛けの根掛かりを防止できる）

【釣り竿】
・投げ竿
（4m 前後。錘 20 ～ 30 号）
※ちょい投げなら 2 ～ 3m 程度のものが使いやすい。

【仕掛け】
・砂ずり（ハリスを重ねてよったもの。仕掛けが絡むのを防ぐ）4 号 3 本ヨリ 40cm

【仕掛け】
・枝ス（道糸から出すハリス）
2 号 7 ～ 8cm

【針】・流線型 8 ～ 11 号

【リール】
・投げ釣り用スピニングリール
パワーエアロ
（大物投げ釣りに最適）

【道糸】
・ハリス（仕掛け糸）2 号 30cm

ファイヤーのワンポイント！

エサが大きいと食べられるだけで釣ることはできないよ。小指の第一関節くらいの大きさがちょうどいいんだ。なかなか釣れない場合は、棚の深さやエサを変えてみよう。